

＝市史編さん便り＝ 【7号】 令和5年5月22日(月)発行.

*****土佐清水市教育委員会生涯学習課・市史編さん室

高知地域資料保存ネットワーク・地域資料叢書25

『土佐国幡多郡大津村 上岡家文書目録 一土佐地域資料集成Ⅰ一』に関わる現地踏査を実施する！

本年3月30日に高知地域資料保存ネットワークから標記の冊子が発行された。この内容については本年度「市史編さん便り第4号」にて詳しく紹介しているので省略させていただく。今回この冊子の編集責任者として文書の翻刻や史料整理・目録づくりを中心的にリードしてきた高知大学教育学部教員望月良親氏、資料整理から翻刻に至るまでの経緯を取材する高知新聞福田仁記者の2名が土佐清水市を来訪し、大津地区の現地踏査を行った。

当市史編さん室としても、市史史料の整理や大津地区の歴史事象を確認することは、今後の史料保存をしていくうえでも肝要なことであることから、市史編さん室田村と吉本がこれに立ち合い、地元の土佐清水市郷土史同好会会長で、市史編集委員、文化財保護審議会審議委員の武藤清氏にもこれに同行していただいた。

踏査は、旧国道沿いの集落、それから一段上の庄屋上岡家墓所、叶崎周辺、貝ノ川浦集落などを精力的に実施した。旧国道沿いには、地元で「もとじや」という広い敷地がある。現地確認していると大きな井戸跡も残り、ここは「もとじや」→「もとしょうや」→「元庄屋」ではないかと推測した。恐らくは、浦庄屋の屋敷がここにかつて所在していた場所であろう。

また、それより一段上の平場に上岡家墓所が所在しており、戦国期の一石五輪や享保期に建立されたと推測される花崗岩製の規模の大きな傘卒塔婆が6基ほど所在していた。銘文には大津浦庄屋を近世の初めから務めていた上岡家当主の氏名が刻まれ、墓碑の規模の大きさから、この地ではかなりの権力と財力を併せ持っていたことがうかがえた。



↑大津集落西部の旧国道沿いの丘陵地途中の平場に集積される当地庄屋上岡家墓所(左)、旧国道沿いに面する「もとじや」(庄屋屋敷跡地)、井戸跡が残る。

来たる 11 月 4 日(土)13:30～土佐清水市立中央公民館 3 階多目的ホールにて、高知地域資料保存ネットワークが主催、土佐清水市郷土史同好会が後援し、「上岡家文書に関わるシンポジウム」を開催する予定である。市史刊行、市制発足 70 周年に向けて歴史文化振興の大きな目玉となるに違いない。



↑上岡家墓所にある歴代庄屋の花崗岩製の笠卒塔婆(近世中頃の墓碑、左)。基部に彫られている蓮弁が豪華であり、これだけ巨大な墓碑は市内でも珍しい。叶崎の灯台(右)。明治 42 年(1909)8 月 5～6 日の台風による暴風で出漁していた漁船やサンゴ船が多く遭難した。この灯台は遭難発生後の明治 44 年(1911)8 月に海上の安全を願って完成・点灯したものである。



◎市史編さん事業・7 月の市史普及啓発活動

7 月 3 日(月)午後から行われる「市立小・中学校校長会」の研修の一環として、15 時より土佐清水市教育センターにて、「中浜万次郎に関わる講話」を市史編さん室(田村)が依頼された。市内小中学校でもジョン万次郎を軸に据えた故郷学習・地域学習が本格的に取り組みされるに先立って校長会が研修を行うものだ。

郷土の先人・中浜万次郎の生き方・精神を教育を通じて、児童・生徒にしっかりと伝えていくことがまずもって大切なことである。

←叶崎に建つ野口雨情の歌碑。

雨情は実際に叶崎に立ち、この歌を詠んだ。